

## 2019年1月1日からのゴルフルール新旧比較表(抜粋)

～ゴルフには審判がいません。従ってプレーヤー自身でルールを把握しておくことがとても大切です～

競技委員会

用語	旧名称	新名称	備考(これまでとの変更など)
コース内の名称	ティーインググラウンド	ティーイングエリア	
	スルーザグリーン	ジェネラルエリア	ティーイングエリア・ペナルティーエリア・バンカー・パッティンググリーンを除いたホール全域
	ハザード	使用しない	ハザードはペナルティーエリア(旧ウォーターハザード)とバンカーの二つに分割された。
	(ラテラル)ウォーターハザード	ペナルティーエリア	・ペナルティーエリアはソールすることができる。 ・ルースインペディメントを取り除くことができる。 ・水域に限らず、競技委員会が1罰打で救済を受けられる区域をペナルティーエリアとして指定することができる。
	バンカー	変更なし	・砂に触れた場合の罰、ルースインペディメントの取扱などに変更あり。
	パッティンググリーン	変更なし	

ルールのカテゴリー	旧ルール	新ルール	備考	ローカルルールへの影響	新規則
距離計測機器	使用の禁止 ※ローカルルールで使用を許可できる	距離のみの計測は使用可能 ※ローカルルールで使用を禁止できる	距離のみの計測は公式ルールで使用が認められました。但し、高低差、風向きなど他のプレーに影響する要素を計測することはできません。	あり	4.3
球の捜索時間	5分以内に見つけなければ紛失球	3分以内に見つけなければ紛失球	公式競技会では暫定球を打っておく事の推奨 プライベートではローカルルールによる距離とストロークに代わる救済を受けられる	—	18.2
スタンスの確認	スタンスを取った後、キャディが後方から確認することを禁止はしていない。	禁止される。(違反2罰打・マッチではそのホールの負け)	スタンスを正しく取ることは、プレーヤー自身が行うべき技術とされました	—	10.2b(4)
ストロークの時間	—	自分のプレーの順番となってから40秒以内(通常はもっと短い時間内に)にストロークを行うことを推奨	公式ルール上の罰則はありません	—	5.6
2打目以降の打順	2打目以降は原則としてホールから最も遠い球からプレーするべきである。(ストロークプレーでは無罰)(マッチプレーではストロークの取消権)	原則はホールから最も遠い球からプレーするべきである。ただし、準備のできたプレーヤーが打つことを意思表示し、他のプレーヤーが、安全面、利便性、時間節約、プレーの妨げにならないことなどから了承した場合は、プレーの順番を変えても良いこととなった(レディゴルフの推奨)	準備ができた方からプレーすることで、スピードアップを図りましょう。(但し、安全確認は万全に)	—	6.4 6.4a例外
球をドロップ	直立した姿勢で、肩の高さから	直立した姿勢の時の膝の高さから	膝の高さとは、直立した時の地面と膝までの高さをいいます。	—	14.3b
二度打ち	1罰打	偶然、不可抗力による二度打ちの罰の廃止(二度打ち以上も同様)	そのストロークを1打とカウントするのみ ※故意である場合は2罰打が科せられます	—	10.1a
自打球	ストロークした球が自分自身、キャディ、道具などに当たった場合1罰打	罰の廃止。 止まったところでインプレー。あるがままで再開	球の動きに変更を加える目的で故意に用具等を置いた場合は罰があります	あり	11.1
救済を受けることの報告	マーカーに告げる必要がある	誰に告げる必要もない	プレーヤーの誠実さを信頼するゲームの原則を尊重 なお、プレーヤーがそうすることの正当な理由がないのに拾い上げた場合は1罰打を受けます	—	4.2b 7.3 16.4

ルールのカテゴリー	旧ルール	新ルール	備 考	ローカルルールへの影響	新規則
推定する、計測する場合の判断の正誤	プレーヤーの判断は通常特に重きを置かれず、プレーヤーが間違っただけで推定や計測に基づいて結果的に誤所からプレーすることになった場合、わずかであったとしても、プレーヤーは罰を受ける	プレーヤーは、その状況下で速やかに、そして正確な推定、計測を行うために合理的に期待されるすべてのことをした場合、その判断は受け入れられ、ビデオなどの検証も含め、後から罰を受けることはない	プレーヤーの誠実さを信頼することの延長線上にあり、救済のニアレストポイントや、直前のプレー箇所などを推定、計測することにおける正確性は、プレーヤーが限られた時間内で可能かつ合理的な方法で行った判断を支持するものとなりました。	-	1.3b(2)
救済を受ける時の球の交換	罰なしの救済(動かさない障害物など)の場合、球の交換は認められていない	罰なしの救済であっても、球の交換をすることができる	罰のあり、なしに係らず救済規則に基づいて拾い上げた球は、別の球に交換することができます。	-	14.3
バンカー内のルースインペディメント	バンカー内(ハザード内)のルースインペディメントは取り除くことができない	取り除くことができる	取り除く際にボールが動いた場合は、1罰打が科せられます。(ボールはリブレース)	あり	12.2a
バンカー内のアンプレヤブル	アンプレヤブルを宣言し、1罰打を加えても、選択できるのは、バンカー内へのドロップか元の位置からのプレーのみ。	2罰打を加えることで、ホールと球を結ぶ線上で、そのバンカー後方のジェネラルエリアに基点を決めて、基点より1クラブレングス内にドロップを選択することができる	1罰打による、バンカー内ドロップor元の位置に加えて、2罰打によるバンカー後方を選択できるようになりました。	-	19.3b
バンカーの砂に触れる	プレーヤーの球がバンカー内にある時に、手やクラブで砂に触れた場合、一部例外を除き、原則として2罰打	以下の場合を除いて罰はない (1)バンカーの状態をテストするために、砂に手やクラブで触れる (2)練習スイングするときに触れる (3)球の直前、直後の区域にクラブで触れる (4)ストロークのためのバックスイングを行うときに触れる	これまで通り、ソールしたり、球の直前直後の砂の状態に変更を加えるような動作は認められませんが、クラブを杖替わりにしてプレー線以外の箇所に触れたケースなどは無罰となりました。	-	12.2b
ウォーターハザード対岸の処置	ホールと等距離であれば対岸の救済を受けることができる	対岸の救済は受けられない	当クラブでは該当箇所がありません。なお、ローカルルールでこれまで通り認めることもできますので、対象があるコースではローカルルールの確認が必要です。	-	17.1d
ペナルティエリア内の諸ルール	ハザード内のルースインペディメントは取り除くことができず、またクラブを地面につける(ソール)ことはできない	ペナルティエリアのルースインペディメントは取り除ける。また、クラブを地面につけることができる	ジェネラルエリア(旧スルーザグリーン)と同じ規則でプレーできます。	-	17 17.1
グリーン上の球をキャディがマーク	都度プレーヤーの承認が必要	承認を得る必要はない	キャディ以外の者が行う場合は、これまで通り都度プレーヤーの承認が必要です	-	14.1b例外
カップの旗竿	グリーン上にある球をストロークした結果、球が旗竿に当たると2罰打	旗竿は抜いても抜かなくとも良く、旗竿に当たっても罰は無く、あるがままプレー。(カップインした場合は、ホールアウトが認められる)	ロングパットの際のバックピンなどが不要となり、プレーの進行アップに寄与(但し、打ち込み事故を助長する可能性があり、できるだけ抜くことを推奨したい)	-	13.2b(2)
グリーン上のプレー線に触れた場合	プレー線に触れた場合2罰打	罰の廃止。 但し、プレー線を改善したという事実があった時は2罰打	キャディがラインを指示したり、自身のバッティングラインの確認の為に、ライン上に触れたなどは無罰となります。	-	10.2b(2)
グリーン上の損傷箇所修復	ボールマークのみ修復することができる	ボールマークに限らず、損傷箇所(人、動物、乗り物などによって作られたもの)を修復することができる	ボールマーク以外のグリーン上の傷(スパイクマークや動物の足跡など)の修復が公式ルールで認められました。	あり	13.1c(2)
救済エリアを計測するクラブ(クラブレングス)	そのラウンドの為に持ち運んでいるクラブならどれでも良い	そのラウンドの為に持ち運んでいる、クラブの中で最も長いクラブ(但しパターを除く) ※ドライバーが計測クラブとなるプレーヤーが最も多いと考えらる。	状況によって計測範囲を変えらることはできなくなります。しかし、必ず最も長いクラブで計測する必要はなく、より短いクラブで簡易的に救済エリアを決めることに問題はなりません。 注意したいのは、本来の計測クラブ(ドライバー)でのエリア内に球が止まった場合はインプレーとなる点です。	-	共通
救済エリアから転がり出した球	救済のドロップエリアから転がり出たとしても、救済を受けられ、ホールに近づいていなければ2クラブレングス以内はインプレー	救済のドロップエリア内に止まらなければならない	エリア外に出た場合はこれまでと同様の処置を取ります。 再ドロップ→止まらなければ、再ドロップ時に最初に球が触れた箇所にプレー。	-	14.3c

ルールのカテゴリー	旧ルール	新ルール	備 考	ローカルルールへの影響	新規則
球を動かしてしまった時	原則として1罰打が科せられる	原則として1罰打。ただし以下の場合、無罰でリブレース。 (1) 球の捜索中に偶然動かす。 (2) グリーン上で球、又はマーカーを偶然動かす。 (3) 規則に基づき球をマーク、拾い上げる、リブレースする時に動かしてしまった時。	(2)に該当するものは旧ローカルルールで罰を免除しています (3)の補足(主にグリーン上) マーク前にボールが自然に動いてしまった場合 →あるがままにプレー(無罰) マーク後、リブレースしたボールが動いた場合 →(動いた原因に関係なく)無罰で元の位置にリブレースとなりました。	あり	7.4 13.1d
球を動かした事の基準	どちらかと言えばおそらくそのプレーヤーがその球を動かす原因となったと思われることを証拠の重さが示している場合、その結論に疑念があったとしても、そのプレーヤーは1打の罰を受け、そうでなければ、そのプレーヤーに罰はなく、その球をあるがままの状態プレーすることになる。	プレーヤーが球を動かした原因と断定する状況とは、「分かっている、又は事実上確実」である状況とされた。「分かっている」は100%事実が確定している状態であり、「事実上確実」は95%以上の可能性を意味している。つまり、プレーヤーが原因であるか疑わしい状態(95%以上の明確な証拠がない)である場合は、プレーヤーに原因は無いものとして扱う(当然に無罰)	プレーヤーが原因である状況とは、「ほぼ確実以上の状況」を言うとは解釈され、旧ルールよりも緩和されているといえます。 旧ルール=疑わしきには罰が科せられる 新ルール=疑わしいだけで証拠がなければ罰は無い	-	9.2
地面に食い込んだ球	フェアウェイのみ無罰で救済が受けられる ※ローカルルールでスルーザグリーン全域に広げることができる	ジェネラルエリア(旧:スルーザグリーン)内であれば無罰の救済が受けられる	ジェネラルエリア(旧:スルーザグリーン)全域の救済が公式ルールで認められました。	あり	16.3
リブレース箇所が不明	規則に基づいて球をリブレースするとき、その場所が分からない場合は、推定地点にドロップ	推定地点にリブレース		-	14.2c
ティーインググラウンド内のインプレーの球	インプレーの球がティーインググラウンド内に止まった場合でも、あるがままプレーしなければならない。※再度ティーアップなどはできない。	インプレーの球が、現にプレーしているホール内のティーイングエリア内にある場合、球は罰なしに拾い上げて動かすことができ、再度ティーアップすることも、あるがままにプレーすることもできる。	ティーショットで当たりそこなった場合などで、罰なしに再度ティーアップすることができるようになりました。 ※ティーイングエリア内とは、ティーマークより後方の2クラブレンジス内の範囲をいい、球がその境界線上にかかっていたら、ティーイングエリア内として扱われます。	-	6.2b(6)
球をブレース(リブレース)	ブレース=規則に則った箇所に球を置くこと リブレース=マークした球を元に戻すこと・球を(できる限り)元の状態に復元すること	変更なし		-	14
暫定球を打つ時	暫定球宣言が必要	変更なし		-	18.3b